

夢を想する私から、一隻の夢の船へ捧ぐ

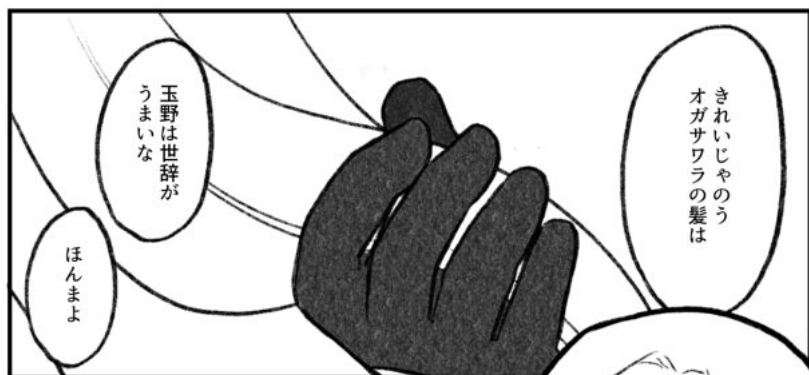
この作品はフィクションです
東日本大震災を描画しているシーンが
あります。予めご了承ください

花 緑 青

花緑青

目次

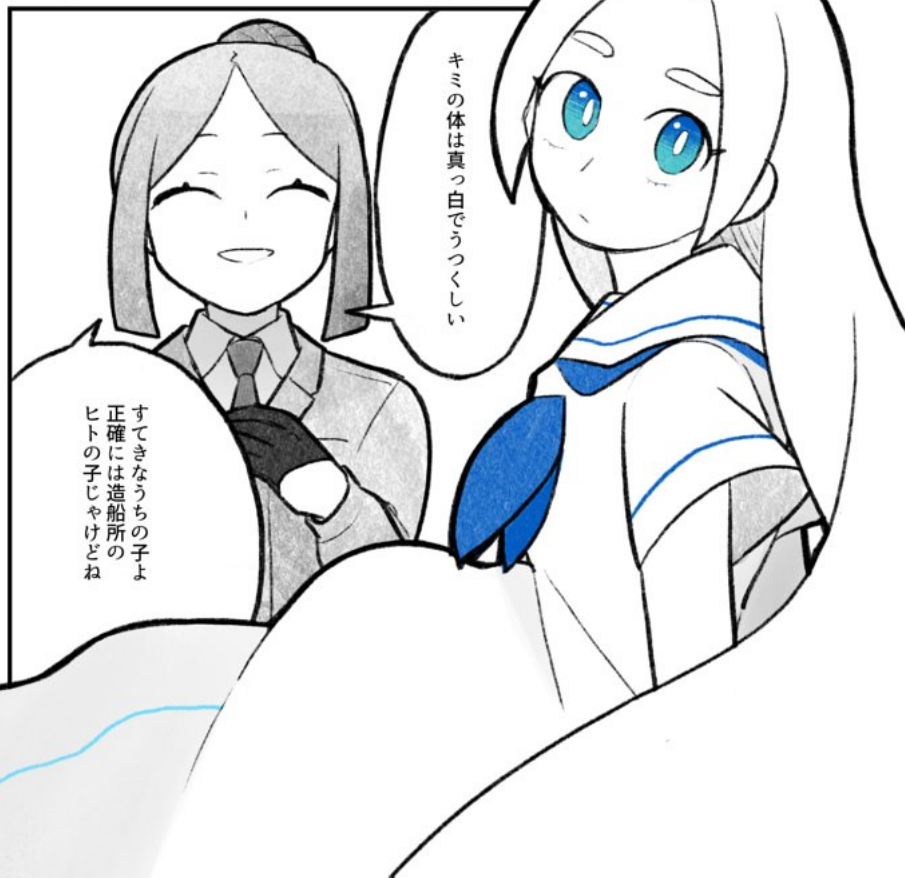
玉野とオガサワラ	07
[コラム]	
玉野市・小笠原TSLキャラ紹介	12
オガサワラと旅	13
[コラム] スーパーライナー	
オガサワラと東日本大震災	27
花緑青	28
めぐる命	35
[コラム] 呉とTSL	39
[コラム] 江田島市・呉市キャラ紹介	40
初日の出	41
アルミになる私	45
無題	54
花緑青にて	59



きれいじゃのう
オガサワラの髪は

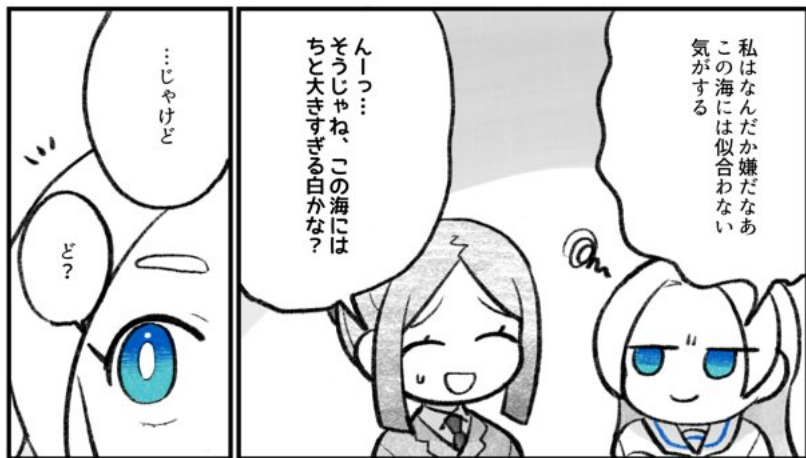
玉野は世辞が
うまいな

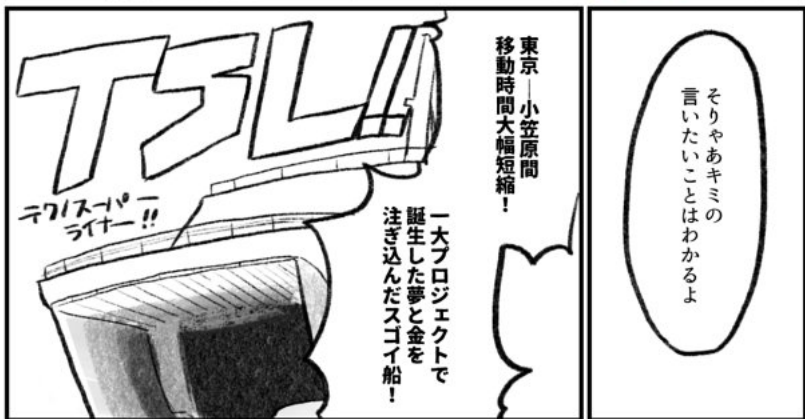
ほんまよ



キミの体は真っ白でうつくしい

すてきなうちの子よ
正確には造船所の
ヒトの子じゃけどね





だが私は、玉野たまのから
うまれたキミを誇りに思う

キミのお父さん達だって
そう思つとるはずよ

花緑青に浮かぶ
キミもきれいなんよ

はなろくしょー

うん、
この海の色

暗うて、それより
沈んだ色の日
多いけどもね

オガサワラは？
どんな色？

あつちは
ポニンプルーゆうて
もつと濃い
青い海しとる

ふうむ……



あはは...

.....
想像できないな?

青い海かあ...
ポニンプルーの...

いろんなヒトが頑張って
くれよるけ、いつか出られるよ

この海じゃのうて
もっと広い、青い海に

今度図鑑を
見せてくれ玉野くん

うん、ええよ

岡山県
玉野市 おかやまけん
たまのし
1940年 市制施行



開眼もする

テラスーパーライナー
小笠原TSL

SUPER LINER OGASAWARA
スーパーライナーオガサワラ

本短編集の中心に位置する船。
超高速貨客船として生まれ、その能力
や効果が期待されていたが、燃費の高騰や
不採算などが重なり計画自体が頓挫。そのまま就
航することなくスクラップとなる運命を辿る。
アルミ製の船としては世界最大級ということ
で身長がかなり高いが社会経験が未成熟である。
襟元にあるのは背守り。
三井くんがつけてくれた。



岡山県南部に位置し、香川県直島や小豆島のフェリーなども行き交う港湾都市。大正時代に三井物産造船部が創業し、造船業で栄えてきたまちでもある。

小笠原TSLはここで生まれた。

本短編集では三井くんの側面も担ってもらっている。

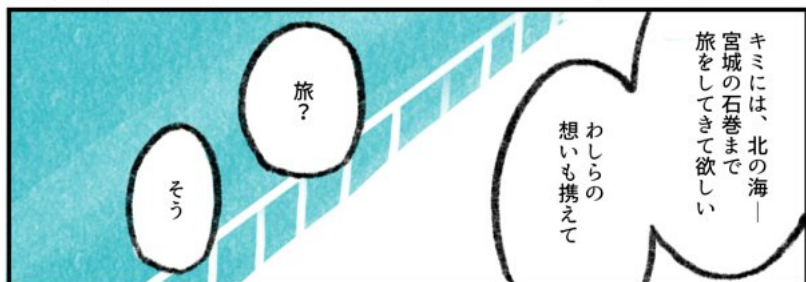
普段からにこやかで、穏やかめな性質。一部地域にはお馴染み？「おもちゃ王国」があるのも、ここ玉野市である。







北だ。





...なあ、



ふむ

そんななかで
これはキミの能力を
知ってもらおう機会

なにより人間を
手助けする機会
そういう内容だ

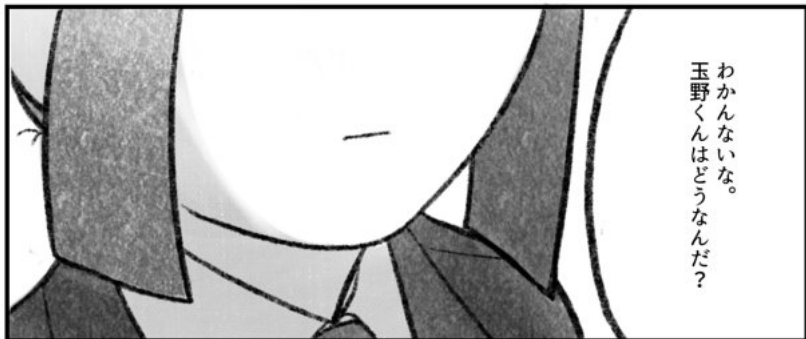


自身を求め産みながら
自分を陸に留め
置いた人間が



オガサワラは
人間が嫌いか？

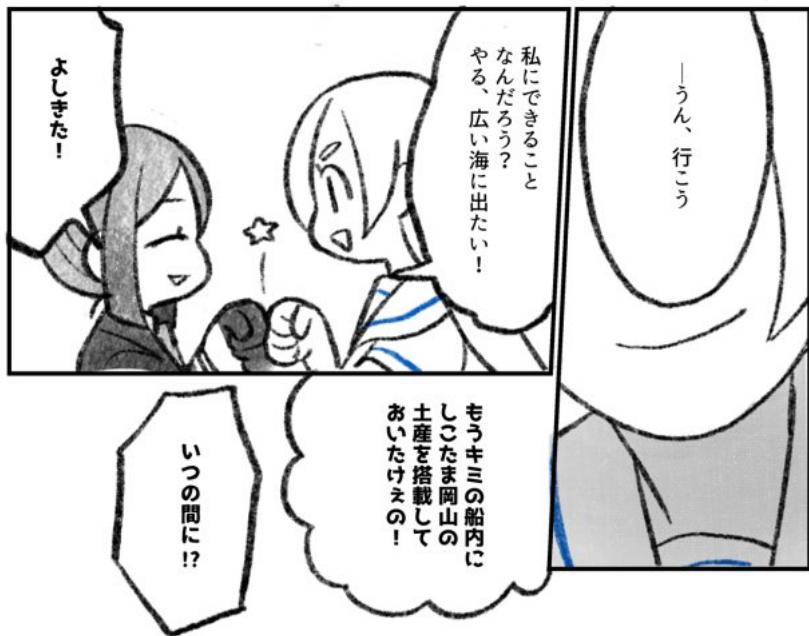
へ？



わかんないな。
玉野くんはどうなんだ？



さあ...どうだろう



—うん、行こう

私にできること
なんだろう?
やる、広い海に出たい!

もうキミの船内に
しこたま岡山の
土産を搭載して
おいたけえの!

いつの間に!?

よしきた!

さて。ええかオガサワラ
滞在は半月ほどじゃ

お客様の
おもてなしは
中の人間がやるから

キミはそれを
見ながらまねたり
手伝ったり

とにかく石巻の人が
ちいとも
ゆっくりできるよう
全力を尽くしてくれ

かんぱろう日本

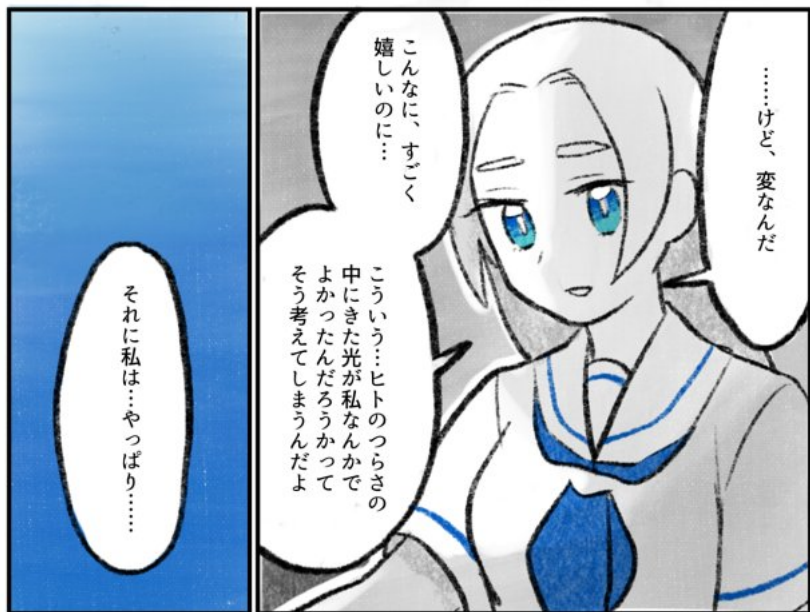
東日本大震災支援 三井物産

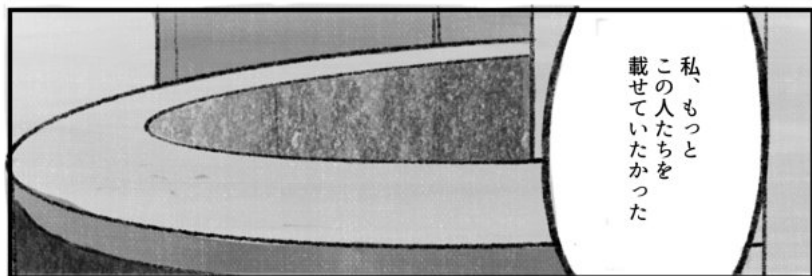
もうみんな
寝てしまった！
あっという間だ

…道中は、
この海は、ここは

よくわからない
おそろしくて、震えてる







立派な、
貨客船みたいだ、私







だがこの半月は
私にとっては人のことが
好きになれるものだった

私は半月の滞りで
ほんの僅かだが得たんだ

本来は何度も往復
しながら得るものを



オガサワラ、大丈夫
キミの活躍はきつと
みんなが――

玉野くん



みんな、すごく
喜んでくれたんだ

これが旅と
いうものなら、

私は
誇りに思う



ありがとな



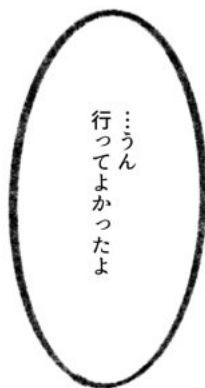
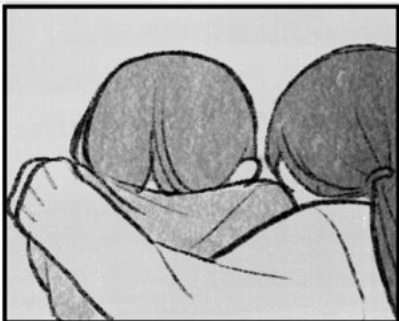
…ほうじゃね、



キミはよく表情が
変わるなあ



私らは、人間で
できとるから



[コラム]

スーパーライナー-オガサワラと 東日本大震災

2011年。

小笠原TSLの就航断念から6年が経過していた。解体されることもなく明け渡されることもなく係留され続けていたスーパーライナー-オガサワラに、ある「仕事」が舞い込む。

それは、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災者支援だった。

貨客船として造られたTSLの設備はもちろん申し分ない。——もしかしたら、これを機にオガサワラの価値に誰か気がついてくれるのではと三井造船は考えていたのかもしれない——そして5月17日～31日の2週間にわたって、震災による被災者の方を食事、入浴、休憩などでもてなした。

当時のことを検索してみると、岡山からの土産物があったりと数は少ないがさまざまな記事が閲覧できるのでぜひ。

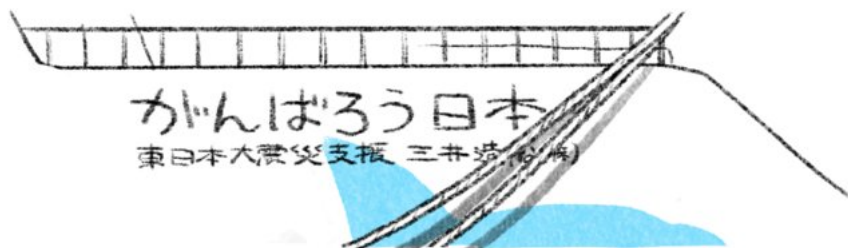
また、玉野三井病院発行「みつい病院便り 第32号（平成23年9月）」によれば、このときのオガサワラにはこの病院の看護師2名と三井造船のスタッフ、青年会議所のボランティアが乗船していた。

船内には玉野市、そして三井造船各所からの寄せ書きが掲示されていたそうで、オガサワラが帰る頃には「このメッセージにお礼がしたい」とたくさんの石巻からの寄せ書きが加わり、オガサワラは玉野市へと再び帰還した。

その後、ふたたびテクノスーパーライナー-オガサワラが「仕事」をすることがなかったのは事実が証明するところであるが——確かに彼女はあのとき、石巻の人々のために「仕事」をしたのだ。

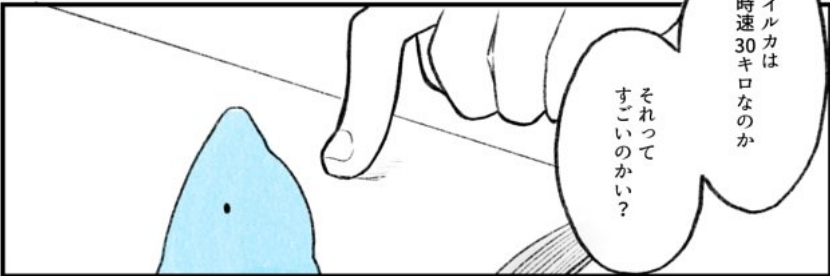
あの白い船体は人々にどう見えただろう。

頼もしく見えていたらいいな、と思う。



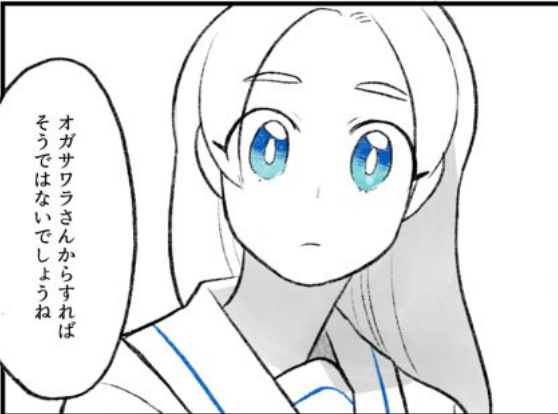


花
綠
青




イルカは
時速30キロなのか

それって
すごいのかい？



オガサワラさんからすれば
そうではないでしょうね




私たちから
したらすごいで
あります



何を！

海からくるものは
旅をしてくるものだ
そういう認識は間違ってる
旅なきの解体とは思えないよ



先ほどは
申し訳ございませんでした



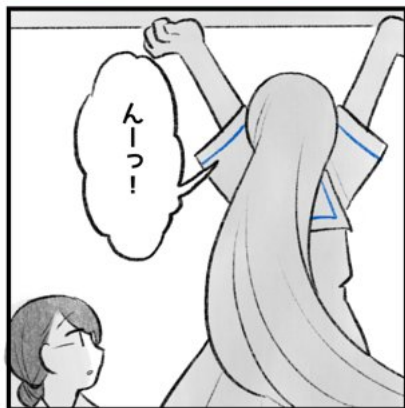
人に必要とされもした
唯一だが誇らしいことだよ



いや、私も旅はしたんだ
私にとっては旅だったんだよ



良い色の海だな
花緑青だ

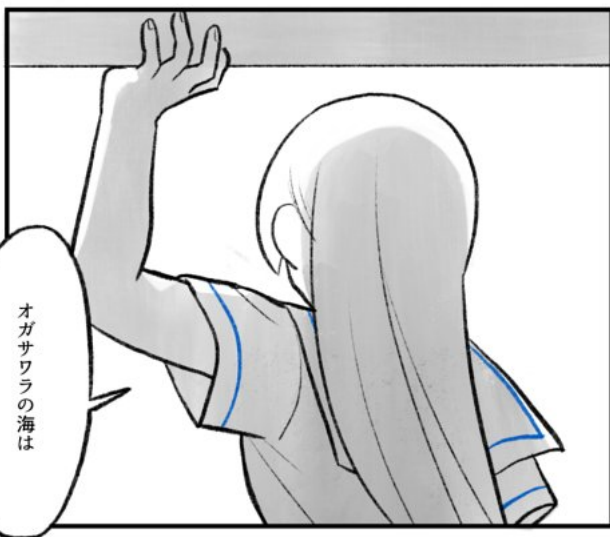
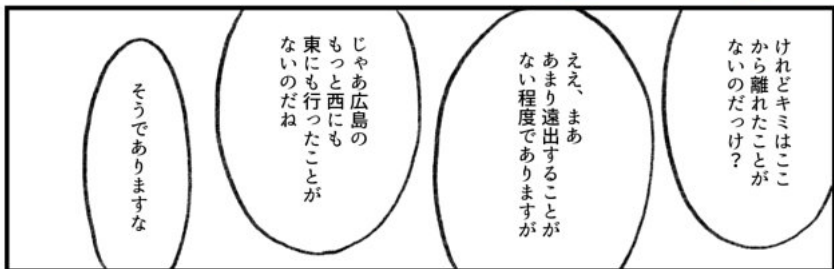


んっ！



故郷も
こういう色を
していた

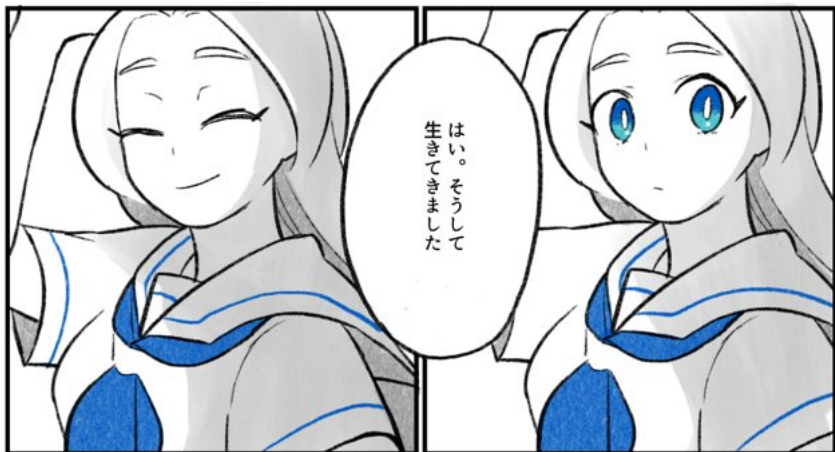
同じ瀬戸内海で
ありますからね





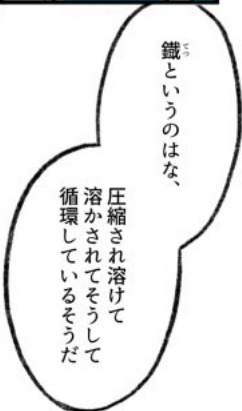
なあ江田島くん

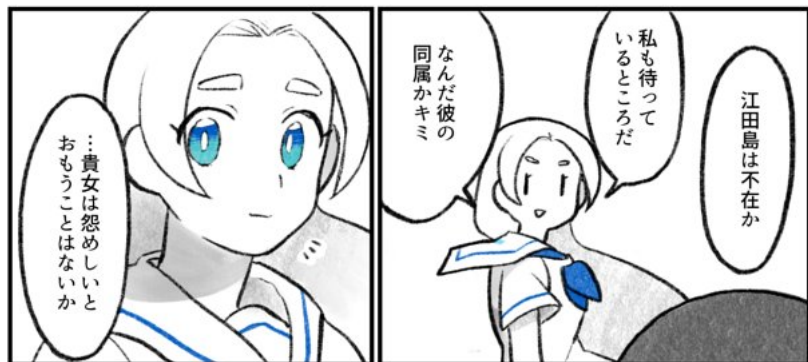
ただ花緑青に浮かぶ
私はうつくしいかい？

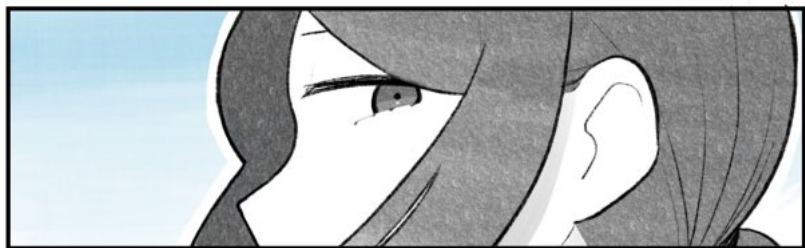
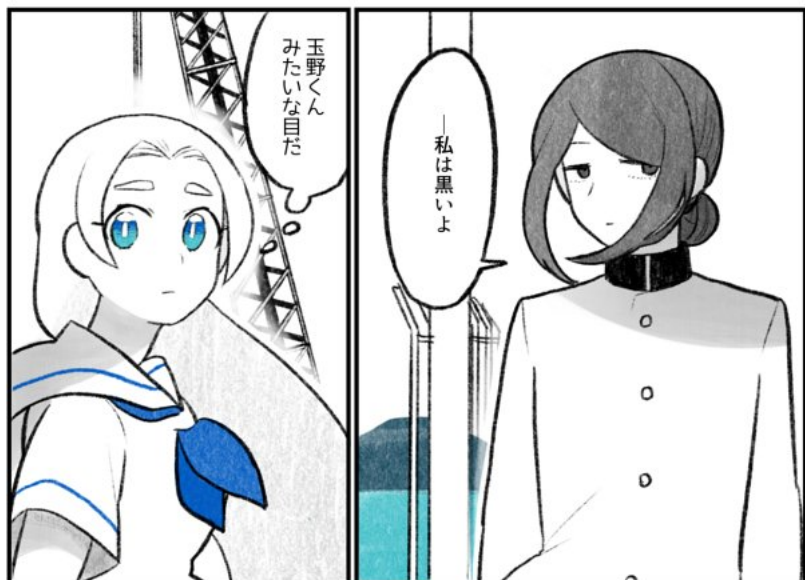


花緑

勝手なやつらだ









[コラム]

呉とテクノスーパライナー

呉にTSLがいる。

と書いたら、驚くだろうか、もう知っている！と思うだろうか、懐かしいと思う人もいるだろうか。

そのTSLは、川原石の二川まちづくりセンター横の呉市海事歴史科学館の倉庫のようなところに、いる。

倉庫の周辺はすっかり色あせており、当時は美しく海の愉快的な情景がペイントされていたであろう外壁は色あせ、落書きもある。倉庫自体も同じような感じで、うっすらと“呉市海事博物館”の文字と「船の資料展示室」がかるうじて読める（展示室はGoogleMAPにも表示される）。

その手前に、ぽつんと置かれているのが「TSL」である。名前はないようだ。この船は実験機で、この成功をもってTSLプロジェクトは進んでいった、とも。この船があったから、オガサワラも生まれた。



2022年著者撮影

なんの関係があったのかわからないが、このTSLはかつて呉市海事歴史科学館——大和ミュージアムで展示されていたようだ。最近も看板にその名残があるらしく、上から貼られたテープが剥がれてTSLの文字が現れることを茶化されているような投稿をSNSで見るとは稀にあった。そして、科学館3階の「船をつくる技術」という子ども向けエリアにも「TSL」を紹介するコーナーがまだ残っている。

だがそのTSLは計画自体が頓挫し、呉にいた、飾られていたはずのTSLは倉庫の前、ちょうど海の見えないあたりに鎮座している。

処分もされず、どこにも行けず、ただ倉庫の前にいる。おそらく呉市の手元に渡ってきた経緯に色々あるのだろう。朽ちゆくまでそのままなのか、ひっそりいなくなってしまうのかわからないけれど。

あの場所に行くと、胸がぎゅっとする。



広島県

江田島市 ひろしまけん
えたじまし

2004年 市制施行

安芸郡江田島町、佐伯郡能美町・沖美町・大柿町の4町が合併してできた市。

かつて旧日本海軍の士官養成学校があり、現在は海上自衛隊第1術学校が置かれている。そのため丁寧に喋る。

のんびり屋さんで、表情がどことなくぼんやりしているのはそのため。

また、フネのスクラップ場も存在する島であり、フネたちにとっては最期の地とも言える。

広島県

呉市 ひろしまけん
くれし

1902年 市制施行

かつて旧日本海軍の鎮守府が置かれ発展してきたまち。戦後は鉄鋼業や造船業で栄えた。

江田島とは海上で面向かっており、その近さや持つ特色のちかさから、かつての江田島町はもちろん、現在の江田島市とも懇意である。

TSLについては思うところがあり、あまり触れたがらない。

忘れてはいない。触れたがらない。

フネの最期を見届けるのが苦手である。



ぴか

初日の出だー!!

…もう何回目の
初日の出だ?

ここでは2度目で
ありますかね

そうかそうか

普通・の・船は
どのくらい初日の出を
見るんだろうなあ



なんだか来年も再来年も
ずっと陸で江田島くんと
初日の出を見ていそうだ！

オガサワラさんそれは…



やっぱり船って海でも
初日の出を見るもの
なんだろうかね？

私は陸で生きていて
保留されて
ほうが長いからこれが
すっかり当たり前だが

見ますかねえ



私のさいごの旅から
もう5年になるんだ、今年で

時間はちゃんと進んでいる



わかっているよ




だが私は夢の船
だったんだから！

夢言ったって
多少構わないだろう

むしろ宝船みたいなもん
じゃないと思わないか？



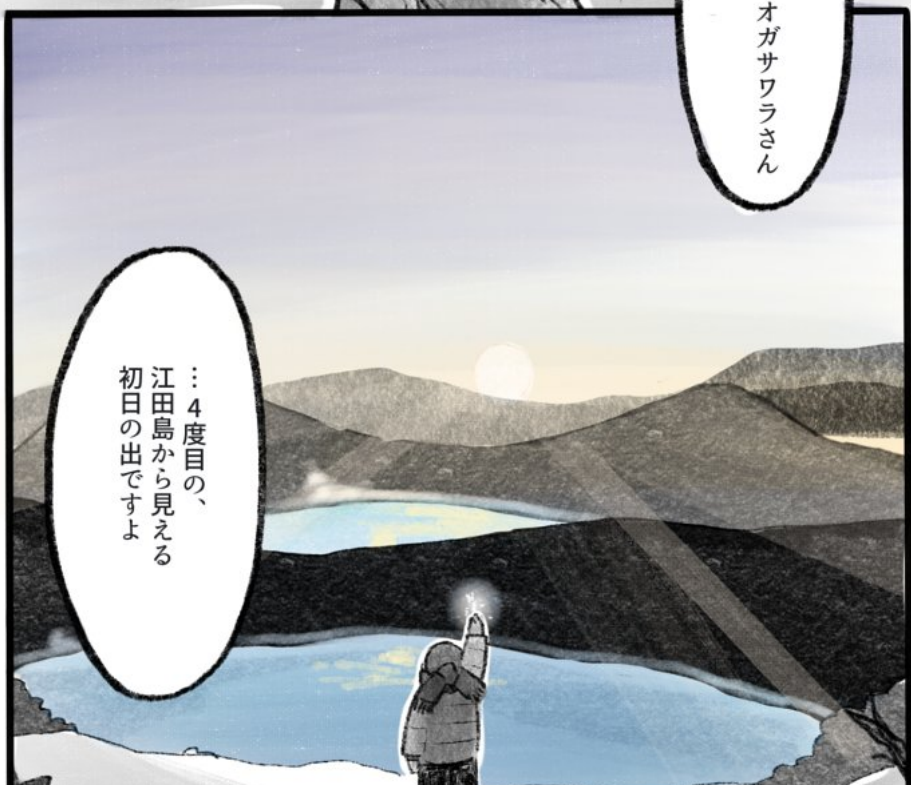
：ああいう時、
兄さん^{江田君}達ならなんと
言ってあげられたんだろう



：じつは私も
永遠にあの時間が
続くような気がして
しまっていたんです



見えますか、オガサワラさん



：4度目の、
江田島から見える
初日の出ですよ

私が過ごした
この土地は
とても小さかった

いいや？

船の私からすれば
もちろん大きいけれど。

RA

キミはなんだこう…
玉野くんなどと違って
小ささを感じるな

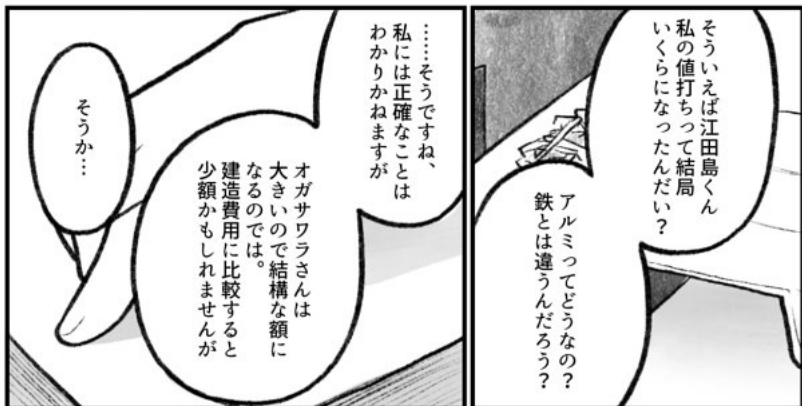
ああ土地がじゃなくて、
キミの体躯というやつか

私は島だけで出来た
小さな市なのです

人口も少なく、
それにまだ出来て10年
ほどでありますから

そうなのか

けれども、





私もどこかに
還っていくんだらうか



何十億のアルミになった私は
どこかに生まれ直せるのかな

オガサワラさん！



けれど、私の名は
忘れられていくんだらうか

オガサワラさん



オガサワラさん!

ん?

た、確かに貴女は
いなくなりますが、
この世界から跡形もなく、


だれも痕跡をのこさず
その代わり
何十億円のアルミに成って

……

だけどまちがー私が、
〈解体した船のひとつ〉として
貴女を忘れ過ぎ去ったとしても

ほんとうに貴女を求めた人たち、
貴女のしてきた
旅の意義を知る人たち、

なにより貴女の
うつくしい船体を
造りあげたひとたち――



きっと、みんな
貴女を忘れません

だって私たちはそういう、
人で出来ているのですから



…なんだそれ

やっぱりキミたち
って勝手だな



—私は失敗だ、
意味もなかった



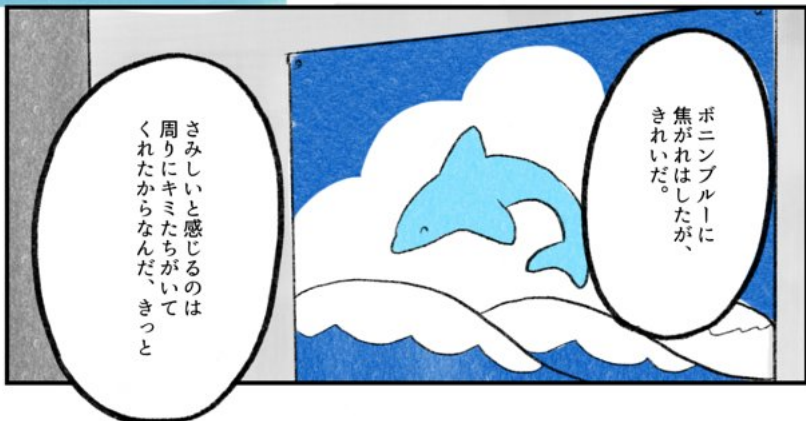
…きれいだ、
この狭い海から
見える海も



けれど、仕事をできたんだろう
それが本来のものじゃなくても

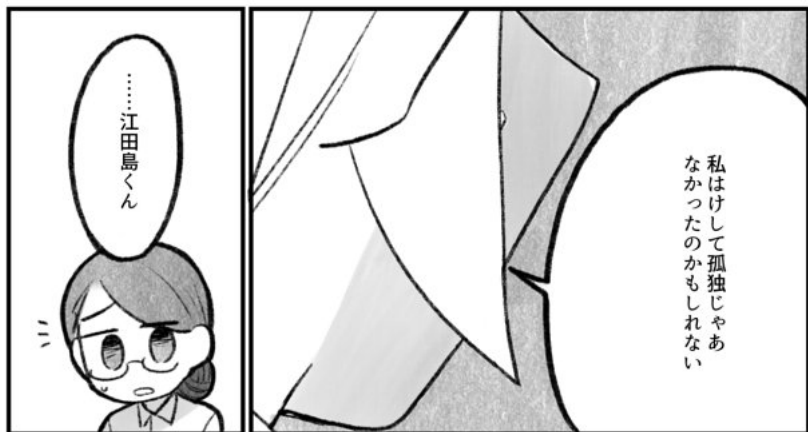
ほかの船や人間たちと
同じものじゃなくても

いたからできた、あの旅には
意味があったんだと思う



ポニンプルーに
焦がれはしたが、
きれいだ。

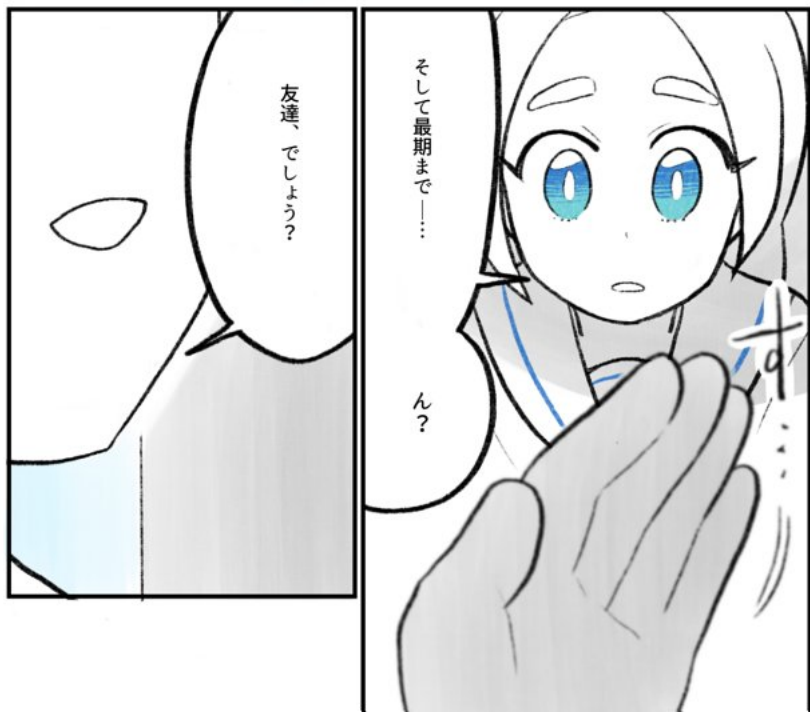
さみしいと感じるのは
周りにキミたちがいて
くれたからなんだ、きつと





そう！
旅先で聞いたんだ

私にとってキミは
生みの親でもなんでもないし、
馴染みのある土地でもない。
けれど、何年もただのアルミ屑に
成っていく私の隣にいてくれた



そして最期まで……

ん？

友達、でしょう？



オガサワラの人たちは
私みたいなすごい船を
欲しがったんだ、船無し
なんてありえないだろう？

タマシイというのは
名に宿るのかな？

どうしました
藪から棒に

ん？ いや、

だから、次にちゃんと
海に出る「オガサワラ」
という船がいて…

そこに私のタマシイが
乗り込む余地は果たして
あるのかと思ってるね

…それって
今からでも間に
合うようなこと
なのですか？

あ！

まっ間に合わないかもしれない……だって私まだっこのとおり！
江田島にシツカリいるぞ！

ふふ、
船って面白いですね

ちえつ。やつぱり
私はあの青い海は
見られないんだな

……ええ、

はっはっは、

ジョーダンだよ

え!?

しょうがない、
これはオバケという
やつになってひとつ走り
するしかないな……

フフ…

ほんとうに貴女は

私たちの内海にいるには
もったいないほどの
うつくしい船でしたよ

…さようなら。

ああ。
…さようなら！

小笠原TSL 概要

小笠原TSL 概要

-全長140m -型幅29.8m -総トン数約14,500トン -速力/時速約70km

起工 平成15年8月8日

進水 平成16年11月13日

竣工 平成17年11月1日

小笠原TSL 簡易年表

※間違いがあったらごめんなさい！
上もだが！

※TSL研究は平成元（1989）年～平成6（1994）年度まで実験等を実施していた※

平成12（2000）年8月	TSL運行事業者募集
平成13（2001）年9月	東京都・石原都知事（当時）により、小笠原航路に投入決定
平成15（2003）年頃	三井造船、小笠原海運間で造船契約の締結
平成16（2004）年11月	小笠原TSL「スーパーライナーオガサワラ」命名・進水式が岡山県玉野市で行われる
平成17（2005）年3～4月	燃料油の高騰により小笠原海運が収支の赤字見込み（年20億円以上）、支援予定の東京都等が撤退
6月	小笠原海運がスーパーライナー契約解約を通知
7月	TSLを保有するTSW（テクノ・シーウエイズ）は解約を認められない旨を通知
一この間、	スーパーライナーオガサワラ就航断念 玉野造船所に係留一
平成23（2011）年3月	東日本大震災発生
5月	被災者支援として宮城県石巻市に17日～31日停泊
平成24（2012）年	三井造船はスーパーライナーの売却先探しを断念（日経新聞2/25の記事）
平成26（2014）年8月頃	江田島市の解体場へ
一この間、	江田島に係留一
平成29（2017）年8月頃	スーパーライナー解体完了

余談

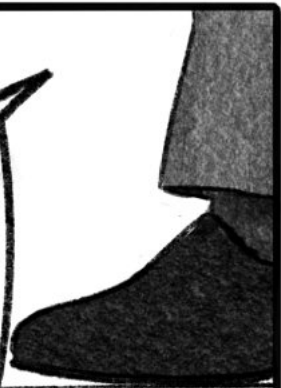
平成28（2016）年6月 三代目おがさわら丸竣工

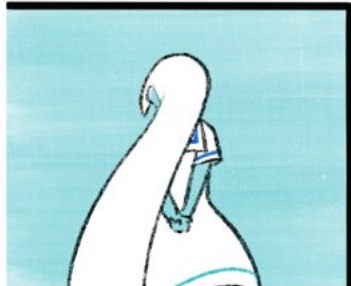
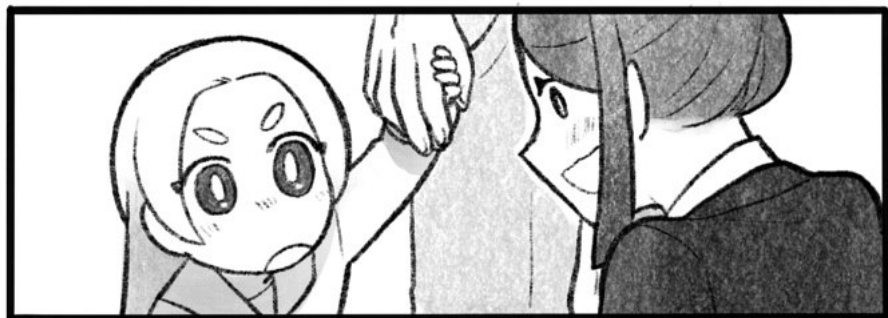


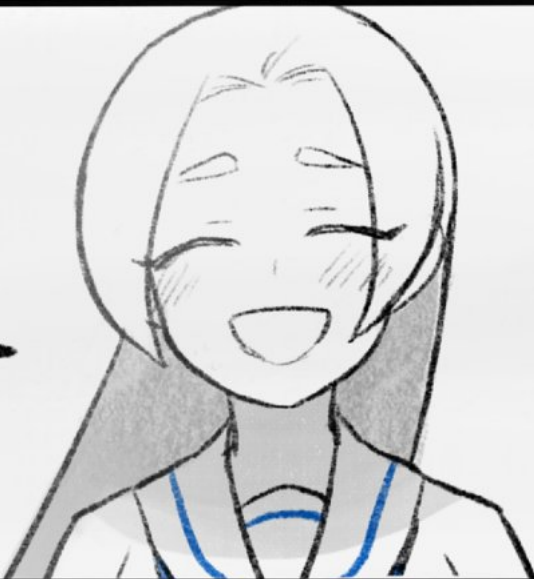
ヒトに求められ、
生まれ、ヒトと仕事をして
…そして終わる。

時代にどう求められ
どう終えたとしても、
それがフネというものだ…
私はそう思っている、
オガサワラ

…フネはヒトあつての存在だ







ありがとな

……忘れたくない。

さみしい。…キミがいてくれたからこんなにさみしいんだ。悔しいんだよ。三井くんだつてきつとそうだと

……貴女を愛している人間がいることをまだ教えてやりたかった。

貴女の旅がどれだけ素晴らしいことだったのか教えてやりたい、

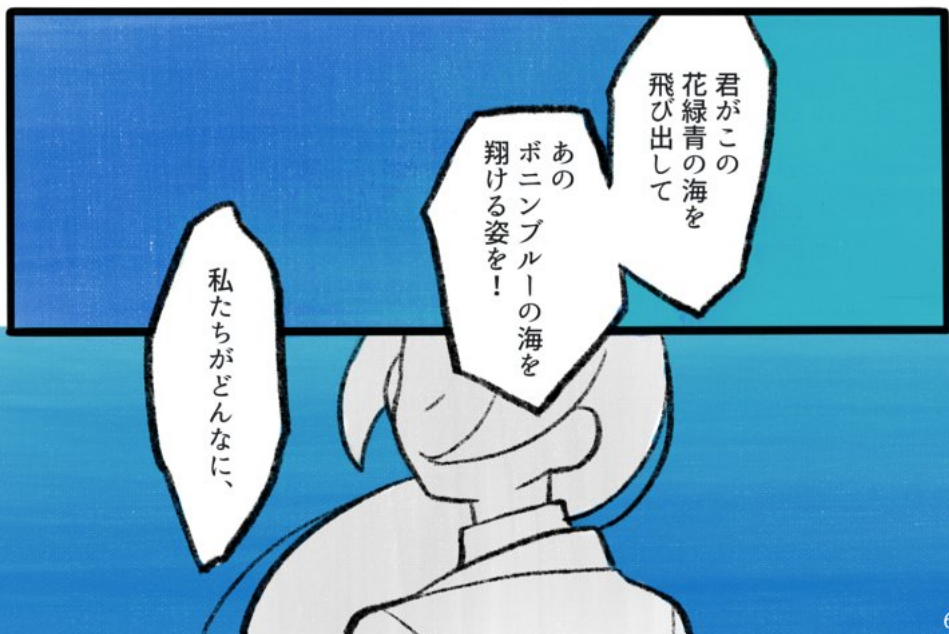
海の色はたくさんあるのだと教えてやりたい

たとえ貴女の生が無だったと言われたとしても少なくとも私たちに愛されていたことを



もつと！

教えてやりたい！
オガサワラ！君に！



君がこの
花緑青の海を
飛び出して

あの
ポニンプルーの海を
翔ける姿を！

私たちがどんなに、



どんなに、夢見たことか

あとがき

ちょっと擬人化という存在に代弁させすぎた。

反省から始まるあとがきですこんには。文章を書くのが苦手というのもあって普段あまりあとがきを書かないのですが、今回はすこしだけしたためさせていただきます。

「スーパーライナーオガサワラ」というふねに出会ったファーストインプレッションをまったく憶えていないのですが、サキノハカさんのTwitter(現X)での投稿で見てかなりの衝撃をもって題材に触れたことは憶えています。

中盤収録の「花緑青」がその原初たる一作目なのですが、これ以外にも描いている土地の擬人化のいくつかの短編を描くようになった点においても原初の一作目にあたるのではないかな……と思います。いずれにせよ、根幹となった一作です。

オガサワラの何が私の心をこんなに掴んで離さないのかがいまだに分からないのですが、心に隙間があれば彼女のことを考える時間がありました。あまりにもさみしすぎる最期に堪えたのかもしれない。私は彼女の手を取って擬人化というキャラクターを通じて、もうすこし話してみたくになりました。

そうしてうまれたのがこの短編集です。そして、冒頭の反省文に戻ります。

反省は反省なのですが、この一冊を編んだのには〈気持ちに区切りをつけるため〉という目的があります。彼女のいつてしまった航跡を見送って、私は私の家に帰る時間が来た。幼い頃、出港したフェリーを港から見えなくなるまでずっと見ていたことを思い出しながら、今日に至るまでの数年の思考の中にいた「スーパーライナーオガサワラ」とちゃんと〈おわかれ〉をしようと思ったのです。

いつまでも〈おわかれ〉ができないのはひどく苦しい。けれど、手を離すのも苦しい。でも、船は港から出なくちゃいけない。

私が知った頃にはもうすっかりいい船なのに、ずいぶん、多くのもをもらったような気がします。彼女を知ることで、また人間も知ることができました。そして、彼女のことを当時から見守っていた人や今も好きだという人がいることも知りました（そのおかげで私はこうして出会えた、気がつくことができたのですが）。

また、オガサワラに関して知るキッカケはもちろん、さまざまな資料などをご教示いただきましたサキノハカ様には改めて感謝申し上げます。彼女の存在していた痕跡をインターネットに残してくださった、さまざまな方にも勝手に感謝申し上げます。

あとがきも含めて、ずいぶん好き勝手な一冊を描きました。

だけど、そんなことしたくなるくらい魅力的な船だったことを、何より惜しまれる船だったことを、資料から、人から、知ることができました。

私は一区切りつけられたでしょうか。

空想の港から出港していく貴女をちゃんと見送れているでしょうか。〈おわかれ〉をして、この港にもう選ってこない貴女のその面影をとどめておけるでしょうか。

いや、かけてこんな話は届かなくていいのですが。自己満足なので。

この感傷に対して空想という進りをもって対抗し、一冊にしたことで一区切りつけられたらいいなと思います。

もしかしたら、いつかどこかで逢っていたかもしれない、今も逢っているかもしれない貴女。さようなら。

参考資料

『これがTSLだ』（1993年/日本海事新聞社）

「小笠原TSLの造船契約及び備船契約の締結について」（平成15年2月/国土交通省）

「小笠原村民だより」No.488～506および号外（2004年～/東京都小笠原村）

「みつい病院便り」第32号（平成23年9月/玉野三井病院）

「東日本大震災 石巻市のあゆみ」（2017年3月/宮城県石巻市）

「T S Lと東日本大震災支援活動 -石巻港での2週間」（J-STAGE/『マリンエンジニアリング』47巻(2012)2号）

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jime/47/2/47_176/_article/-char/ja/

「解体を待つテクノスーパーライナー 115億円の超高速船、スクラップへ」（2015年/ハフポスト）

https://www.huffingtonpost.jp/2015/05/09/techno-super-liner_n_7249744.html

「【超高速客船】が被災地に入港・（スーパーライナーオガサワラ） 石巻市 宮城県」（2011年/4travel）

<https://4travel.jp/travelogue/10569098>

スペシャルサンクス!

サキノハカ様

この短編集を手にとってくださった方

小笠原TSLの記録に関わった全てのかたがた

! linkあります!



花緑青

2024年7月15日 発行

著者 高橋コヤマ
発行元 O八十八堂ちろり
印刷所 PixivFACTORY様
連絡先 o88menme@gmail.com

本書内容の無断転載・複製・複写、ネットオークションやフリーマーケット等への出品は禁止しております
ご感想、ご連絡はお手数ですがメールアドレスからご連絡お願いいたします
撮影した表紙のSNS等への投稿はしていただいて構いません



MODIFY



COPY



PRINT



RESALE



当サークルの本は
同人誌買取店への
出品厳禁です

サークル主の手配のないところで
売り買いするのは避けてください

出品されたものは著作権が失われてしまいます



不要になったら
もえるごみ